

## 北海道中川郡 中川町教育委員会

# 地域ボランティア・学校・教委が一体となり、放課後の中学校で、無償の「公設塾」を開設

### 「なかがわ塾」での学習の様子



放課後に学習する習慣がつくことで、家庭学習の習慣が定着する生徒も多い。学習に消極的で授業についていけなかった生徒が、「やれば分かる」と自信を持ち、前向きになる姿も見られる。

教材には、講師による自作プリントや市販の問題集などを使用。生徒は、分からない問題があると講師に質問し、1対1でじっくりと指導を受ける。休憩時には、世界中を旅した講師から、リアルな体験や写真を見聞きすることも。



### 「なかがわ塾」の概要（2022年度）

運営主体	なかがわ塾運営委員会 * 構成：中川町教育委員会・中川中学校教員・なかがわ塾講師
基本方針	希望する高校へ入学するためだけでなく、自主学習の取り組み方を身につけ、その先の希望進路と夢を実現させるために、基礎学力をしっかりと身につけられるよう、「分かった！」状態になるまで個別指導を行う。
受講生	3学年で、21人（全校生徒25人中）
指導講師	地域ボランティア9人 * 前教育長、町役場職員、元予備校講師、会社員、酪農家など
受講教科	数学、英語（3年生後期の高校入試前は、国語・社会・理科も実施）
開講日	1・2年生：毎週水曜日、3年生：毎週月・木曜日
開講時間	午後6時30分～午後8時40分（休憩時間10分を含む）
受講場所	中川中学校の美術室・多目的室 * 祝日・長期休業中は、生涯学習センター
受講費用	受講料・テキスト代は無料（模擬試験受験料、保険代は自己負担）

北海道中川郡中川町は、2011年度に、唯一の中学校である中川町立中川中学校で、放課後に開講する公設の「なかがわ塾」を開設。町内に1校あった高校の廃校が決まったことから、中学校卒業後は町外に下宿をして高校に通う生徒が増えることへの支援策として始めたものだ。中川町教育委員会（以下、町教委）の松永裕史主査は、「過去の様子から、親元を離れて生活をしながら授業にしっかり取り組めるだけの学力や学習習慣を育てておかないと、一人暮らしの高校生活は続かないという危機感がありました」と振り返る。

2011年当時、町内には、「学習塾のない地域でも、札幌や旭川の難関高校に合格できる学力をつけてあげたい」と、寺の住職と地域ボランティアが運営する「寺小屋」があった。そこで町教委は、地域ボランティアや中学校とともに「なかがわ塾運営委員会」を設立し、公設塾にすることを提案。地域・学校・町教委が一体となって、中学校内での塾を始めた。受講費は無料で、教材費や事務消耗品費、講師の交通費などの年間約200万円は町教委が負担している。

塾の開講日は、1・2年生は週1日、3年生は週2日で希

望制だが、先輩の評判などを聞きつけて大半の生徒が入塾する。退職教員や元保護者、地域おこし協力隊など、11年間で37人が携わったボランティア講師は、地域のネットワークを使って適任者に声をかけ集めている。

「同じ方向を向いて地域の子どもたちを支えようと思ってくださる方に、講師を依頼しています。なかがわ塾は、子どもの学力を支えるとともに、子どもを核とした、まちづくりの取り組みでもありと考えています」（松永主査）

生徒2～3人に1人の割合で講師がつき、個別指導に近い形で「個別最適な学び」を実現できることが最大の魅力だ。中学校教員は、ボランティア講師と生徒一人ひとりの状況を共有し合い、中学校での授業にも生かしている。

「学力向上や学習習慣の定着に加え、休憩時間などに講師から社会経験を聞くこともあり、生徒がキャリアを考える機会にもなっています。本町では現在、少子化対策の一環として義務教育学校の設立に向けた研究を進めており、9年間を通して、地域全体で子どもの成長を支える仕組みづくりに力を注ぎたいと考えています」（松永主査）



中川町教育委員会  
主査、社会教育主事

**松永裕史**

まつなが・ひろふみ

### 中川町概要

人口 約1,350人 面積 594.74km<sup>2</sup>  
町立学校数 小学校1校、中学校1校  
児童生徒数 小学校63人、中学校25人  
電話 01656-7-2877（教育委員会）

### Web VIEWnext ONLINE

塾の様子や、ボランティア講師・中学校教員・生徒の声は、ウェブサイトで紹介。右記の2次元コードからアクセスできます。

